

活動報告書

今月の主な活動

1月は年始めらしく繭玉づくりの現場を見学させていただきました。こういった風物詩も作り手がいなくなってしまうと途絶えてしまうので、若い世代も養蚕に関わりたいてと思ってもらえるようになっていかないといけないなと痛感します。繭玉づくりの工程は男性と女性の役割がはっきり分かれているところが日本昔話の世界感に感じてしまうくらい時代は男女という扱いにセンシティブになったのだなということを実感してしまいました。物理的にどう考えても男性の方が力はあるので、そういう分担は変わらずあっても良いように思いますが、苦手な人までその性別基準を優先されて我慢するのは良くないということでしょうか。



そして今月は製糸場内で富岡市地域おこし協力隊3人が揃って展示をする機会を作っていただき、それまでなかなか揃うことがなかったので改めてそれぞれの活動が垣間見れて新鮮でした。展示もこじんまりした形になるかと思っていましたが、設営は市の職員の皆さんにも手伝っていただき予想以上に立派な仕上がりで、養蚕農家を実際の写真からどんなことをやっているのか知ってもらうきっかけになったのではないかと思います。協力隊3人ももやっていることが違うのでこの展示はそれぞれの視点から富岡の暮らしを表現していて、初めての試みでしたが面白いものになったのではないかと思います。定期的に養蚕農家のドキュメント写真や動画を掲出できるとPRとして使い道があるような気がしました。



今月のまとめ

写真展のおかげで、9月就任から撮りためていた写真を改めて見返し客観的に見ることができました。ちょうど配蚕から荷受けまで見学させていただいていたので、一連の写真があり流れを見てももらえる状態が作れました。繭一つ作るだけでも命がけでやっている職人という暮らしに憧れて興味を持ってくれる人や、シルクの生糸になる前でもこんなに手間がかかっているんだと感じてもらえると良いなと思いました。

